

介護老人保健施設しおん

症 例 概 要 【ご利用者】90代 女性 要介護5

【利用期間】令和6年2月～

【 傷病名】慢性心不全 高血圧症 大球性貧血 誤嚥性肺炎 認知症 糖尿病

白内障 心房細動 高血圧症

【 経過 】R5年11月に病院を受診し心房細動や貧血による心不全増悪により入院。入院中に誤嚥性肺炎となり治療後、R5年11月に石巻健育会病院へリハビリ目的で入院。リハビリにより寝たきり状態から車椅子で起きれるまで回復となりご本人、ご家族の希望によりR6年2月に当施設へ入所となる。

内 容

入所初日から「家じゃないの?」「聞いていない」「騙された告訴する」と興奮され「あなたに指図されたくないです。」介護拒否があり車椅子使用であるが立ち上がって歩いたり、事前に把握していた情報と違い転倒のリスクが高い状態で、ユニットから出てご自分で家に帰ろうとしていました。ご自宅に帰れない事を理解していくうちに「もう死んでもいいです。」と悲観的になったりと部屋から出ようとせずベッドで寝ている時間も増えていました。精神的に不安定な状態の中で、環境の変化が大きなストレスとなり認知症の症状が悪化したと考えられます。

利用者さんの言葉からも解るように信頼していただけるよう接していく必要があり対応していくことにした。精神状態にムラがあるため、利用者さんの体調を考慮しながら挨拶や声掛けをしたり、訴えに対して傾聴して解決していくことで信頼関係の構築を図っていきました。

ご家族より”編み物・折り紙・シール剥がしなどの手作業が好き”との話しからタオルたたみをお願いしたところ、自分の役割と認識され日常生活において意欲が見られました。3カ月経過するとADLも遠位見守り～自立レベルでブレーキの掛け忘れもなく、移乗も安定しセンサーマットとカメラを解除できるまでの状態となりました。他の利用者さんがタオルたたみを行うと文句を言ったり奪ったりと敵対心が見られてましたが、タオルたたみの仕方を他の利用者さんに教えるようお願いすると、他の利用者さんに対して好意的な様子が多くみられるようになり半年程経過する頃には、他の利用者さんとしおんの庭に散歩に出かけたり編み物を一緒に行ったりと交流も増えていき、みんなで作品を展示したりと充実した日々を過ごされております。今ではここでの役割もでき生きがいと話してくれています。